

- 1 医療機関と地域とのネットワークが患者さんの生活を支えます — 千葉大学病院 地域連携の取り組み —
- 2 新しい外来診療棟完成でこう変わる — 災害発生時の対策 —
・患者さんの声
- 3 千葉大学病院の先進医療 ～急性リンパ性白血病の新しい検査法～
・「非血縁者間骨髄採取」で感謝状をいただきました
・「ミニニュース」院内コンサートを開催しました♪
・第3回高齢社会を考えるシンポジウムを開催！
・「予知できるがんと予防できるがん」を考える市民公開講座のご案内
- 4 ・[フリートーク]総合医療教育研修センター長 田邊政裕
・[トピックス]禁煙支援外来へようこそ
・[ちばをてくてく]⑩千葉県立中央博物館



千葉大学医学部附属病院 〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>

ホームページで「病院ニュース」のバックナンバーをご覧いただけます。

医療機関と地域とのネットワークが患者さんの生活を支えます

千葉大学病院 地域連携の取り組み

高齢者人口の増加につれ、医療を必要とする方は、今後さらに増加すると見込まれています。すべての方に質の高い医療を適切に提供し、住み慣れた地域で安心して暮らしていただくためには、医療機関同士が役割分担を明確にし、行政、福祉、地域コミュニティと連携していくことが大切です。



シミュレーターを使って救急医療を体験した高校生

午後からの全体会は、「医療連携から地域連携へ」がテーマ。北海道で地域を支える医療というコンセプトで活動している村上智彦医師と、千葉市稲毛区で介護サービスを核として地域づくりも実践している池田徹氏の発表をもとに、医療にとどまることなく広い視野で地域の連携について考えました。

その後は、8つのテーマ別に分科会を開催。がんや認知症、脳卒中、救急医療のそれぞれの分野における連携や、在宅患者さんやハイリスクな妊産婦さんを支えるための連携、退院しても一貫した看護を提供するための連携、施設間の連携を支える「千葉県医療機関ITネット」の活用について、活発な議論が行われました。



ひとりの患者さんの退院後の療養について、地域医療連携部は全員で話し合いを行っています

県内の医療・介護・福祉関係者が集結 ■第7回「千葉県地域連携の会」

退院後の患者さんご家族が望む生活を実現するためには、医師、看護師をはじめ、院内の専門職との連携、さらには地域のさまざまな機関との連携が必要です。

千葉大学病院では、毎年「千葉県地域連携の会」を開催し、地域連携の充実を図っています。7回目となる今年度は、7月31日に開催。県内の医療・介護・福祉関係機関や行政・消防担当者など、院外から376名が参加しました。

午前中は、医療者を対象とする高校生を対象としたセミナーを初開催。43名の高校生が、県内の医療状況の解説や先輩大学生のキャンパスライフ紹介に聞き入り、現役の救急医や救急救命士の指導で、医療シミュレーターを使用した実習を体験しました。終了後には、多くの高校生が「他県の大学に進学しても、将来は地元に戻って地域医療に貢献したい」と語ってくれました。

医療機関と地域とをつなぐ ■地域医療連携部

「千葉県地域連携の会」を企画し、運営の中心を担っているのが、退院支援と療養相談を担う部門として設置された地域医療連携部です。今後は、この「千葉県地域連携の会」での成果を活かし、関係機関の皆さまと地域で暮らすすべての方を支える包括的ケアシステム作りを目指して取り組んでまいります。

(地域医療連携部 葛田衣重、井上 崇)

いのはなコラム

ランニングの日々

きっかけはメタボ。10年ほど前、40歳を過ぎて大学病院のリハビリテーション部で働き始めた頃、生活は不規則で運動量は減り、ストレスも増えました。知らぬ間にお腹が出てきて、体重が10kg増えるのに大した時間はかかりませんでした。

これはマズイ！と持ち出したのが車庫の片隅でほこりをかぶっていたロードレーサー。成田や船橋への出張はすべて自転車。あつという間に体重は10kg減。そんな時にリレーマラソンに誘われて走ったのが2km。これが自分でも予想外の速さ。これはいける、調子に乗ってハーフマラソンに出場。その勢いでフルマラソンに申し込み、実に26年ぶりのフルマラソンでサブスリー(3時間を切ってゴールすること)を達成しました。

ゴール前は何ともいえない達成感。今ではランニングをするのを忘れて、次の仕事への意欲が湧いてきます。

(リハビリテーション部部長 村田 淳)



2012年長野オリンピック記念 長野マラソンにて

新しい外来診療棟 完成でこう変わる

平成26年5月末 完成予定



千葉大学病院の新たな顔となる外来診療棟完成図

免震構造のゆとりある診療空間

近年、医療の精度が上がり、外来での診療の幅が広がったため、外来診療は増加傾向にあります。新しい外来診療棟は、広さが現在の約2倍、外来診療室が154室から209室になり、より多くの患者さんに快適に受診していただけるゆとりある空間になっています。また、多くの病気を抱える高齢者を、複数の診療科が連携して診療にあたる「高齢者医療センター」の新設や、在宅中心のがん診療を行う外来化学療法室の増設など、さまざまな患者さんに対応できる環境を整えます。

現在、外来診療棟の南側に新しい外来診療棟(地上5階、地下1階建)を建築中です。

患者さんに、より高度な医療と、快適な受診環境を提供するために、

平成16年から進めている再開発計画の一環として行っているものです。

新しい外来診療棟を貫くポスビタルストリートは、大規模災害時には、治療スペースになります

災害発生時にも活躍します

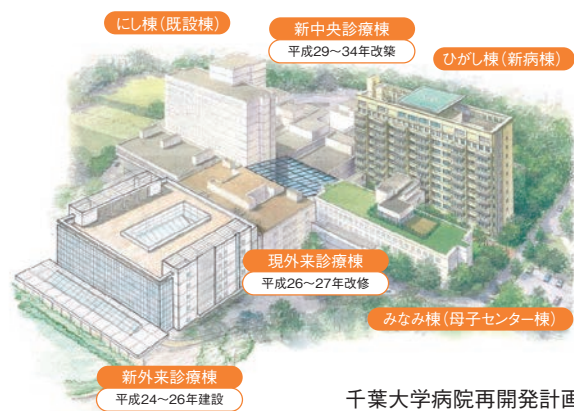
当院は、千葉県の地域災害拠点病院として指定されており、東日本大震災では、災害派遣医療チーム(DMAT)や医療救護班の派遣など、さまざまな支援を行っています。今後、首都圏直下地震に備え、さらなる災害拠点機能の強化が求められていることから、新しい外来診療棟は、災害時に柔軟に活用できる仕組みになっています。

1階は、3層吹き抜けのアトリウム空間となっており、メインストリート(ポスビタルストリート)は災害時、トリアージ(※)センターやボランティアセンター、緊急時の病床として活用できるよう、設計されています。

特にトリアージエリアとなる診察ブースには跳ね上げ式診察台とキャスター付診察台2台を配置し、待合壁などに医療ガス設備を計24箇所に設置するなど、大規模災害の対応に十分配慮しています。また、外来診察中に帰宅困難になった患者さんなどのために、新たに非常食類や簡易工アマットを常備する予定です。

今後は、院内の災害対策はもとより、地域、さらには国内の大災害にも対応すべく、DMATの育成を推進し、災害支援用車両(救急車両)の整備を進めるとともに、その機能を充分发挥できるよう、定期的な防災訓練を行っています。

次回は診療機能面での情報をお伝えします。



千葉大学病院再開発計画

※トリアージ: 災害医療において最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって、治療の優先度を決定すること

患者さんの

声

皆さまからこんな声が届きました。
患者さんの声にお答えします。

ご要望

Q 3階売店横の婦人用トイレについてのお願いです。個室内にフックが付いていません。扉や壁にバッグや手提げ袋をかけられるようにフックを取り付けていただけませんか。

A このたびは、有益なご意見をいただき、ありがとうございます。確認したところ、扉にフックが取り付けられていましたが、高い位置にあり、ご不便をお掛けしたことをお詫びいたします。バリアフリーの観点からも、どなたでも簡単に手荷物等を掛けられる位置に、新たにフックを設置しました。また、隣接する男子トイレも同様に設置しました。

お便り

生まれて初めての入院(検査)で、お世話になりました。点滴、絶食や採血、その他いろいろな検査をしました。その間、担当の医師の方はもちろん、多くの病院のスタッフの方々に優しく接していただきました。

病人の私は不安と恐怖で、おびえていましたが、優しくわかりやすく、明るい笑顔で説明してくれ、とても心強く感じられました。前向きに病気と向き合っていきたいと思います。21日間ありがとうございました。

病気とたたかい続ける子どもたちのために ～急性リンパ性白血病の新しい検査法～

小児科には、新生児、小児だけでなく、生まれつきの病気や小児期に発症し、生涯にわたって病気とたたかい続ける患者さんが入院しています。千葉大学病院小児科では、医師、看護師をはじめとしたチームで、先端医療や3次医療を取り入れた治療を行っています。

10月1日より急性リンパ性白血病の先進医療が実施され、小児急性リンパ性白血病治療への応用が期待されます。



白血病治療においては、抗がん剤がとてよく効いても白血病細胞が体内にわずかに残存していることが知られており、この細胞を見つけることは非常に困難と言われていました。最近、わずかに残った白血病細胞(MRD)を測定し、より適切な治療方針を決定する試みが行われるようになってきました。MRDは白血病細胞に特異的に発現する細胞表面抗原をフローサイトメトリーによって検出する方法や、白血病細胞に特異的な遺伝子異常をPCR法(わずかな遺伝子を増幅して検出する方法)により検出することができます。両方とも急性リンパ性白血病症例の90%以上に実施可能となっています。

欧州では、国際会議参加国を中心として多施設共同研究で用いるPCRによるMRD測定法とその解析結果を標準化するための組織が設立され、標準化された測定方法を用いてMRD層別化治療研究が実施されています。

日本の研究グループではMRD測定施設として愛知医科大学が平成22年から正式参加しており、当院では愛知医科大学と提携して急性リンパ性白血病における臨床研究PCRによるMRDの測定を行っています。

日本の小児急性リンパ性白血病治療におけるMRD測定の意義はまだ確立しておらず、臨床研究でのMRDの解析結果が待たれる状況にあります。

(小児科 助教 落合秀臣)

骨髄移植のための「非血縁者間骨髄採取」で感謝状をいただきました



(血液内科 酒井紫緒)

千葉大学病院では平成6年から非血縁者間での移植を目的とした骨髄採取を行っており、今年3月までに142件の採取を行いました。

白血病、再生不良性貧血などの血液疾患は、骨髄にある造血幹細胞に異常が生じることにより発病するため、健康な骨髄の移植が必要になることがあります。そこで、日本骨髄バンクに登録しているドナー(骨髄提供者)から骨髄液を採取し、患者さんの治療を行っています。

当院は昨年度の採取件数が多かったことにより、日本骨髄バンクより感謝状を授与されました。今回は、全国で38施設、関東では13施設、千葉県では当院のみに授与されました。

骨髄採取にはドナーをはじめ、多くの方々のご協力が必要です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

看護師・助産師 募集



平成26年度新採用
中途採用
同時募集

心と技と責任。

その重さを知っている人。
それが、千葉大学医学部附属病院の看護師です。

- 資格: 平成26年3月卒業見込みで、看護師・助産師免許取得見込みの方又はすでに免許を取得されている方
- 待遇: 当院規定により優遇します
- 応募: 履歴書・看護師等の免許証(新卒の方は成績証明書)を郵送ください。なお、選考日・応募先については本院HPを参照してください。
※中途採用応募の場合は、事前に電話でご連絡ください。
- 応募またはお問い合わせ先
TEL: 043-222-7171
総務課人事係(内線6021) 看護部事務室(内線6610)



千葉大学医学部附属病院

詳しくは看護部ホームページから

<http://www.chiba-kangobu.jp/>

Heart, Skill & Responsibility

mini news

院内コンサートを開催しました♪

毎年恒例の「院内コンサート」を7月に開催しました。今回は、SHKトリオ(ピアノ、チェロ、バイオリン)による演奏。チェロのソロ演奏から、クラシックにポップスと多彩な演奏が外来ホールに響き渡りました。ホールにいた皆さんも演奏を楽しまれ、終了後には、「ブラボー」という声援もあがるなど、大いに盛り上がりました。冬には、クリスマスコンサートも開催する予定です。



お気軽にご参加ください!

「“あかるい未来”語ることから はじめよう」 第3回高齢社会を考える シンポジウムを開催!

11月2日(土)13:30~16:30(13:00開場)、千葉大学西千葉キャンパス けやき会館大ホールにて、シンポジウムを開催します。

高齢社会におけるあかるい未来に向けての取り組みの紹介や、パネルディスカッションでの議論、千葉大学と千葉県立保健医療大学の取り組みを紹介するポスター展示があります。参加無料・申込不要。

アンジーの選択は正しかった?

「予知できるがんと 予防できるがん」を考える 市民公開講座のご案内

人気女優のアンジェリーナ・ジョリーが、左右の乳房を手術で切り取ったというニュースは、世界中を驚かせました。乳がんになりやすい遺伝子を持っているため、がんができる前に健康な乳房を切除したのです。親から子へと遺伝するがんは予知でき、ウイルスなどでできるがんは予防できます。詳しくは、平成26年1月26日(日)開催の市民公開講座(京葉銀行文化プラザにて)で解説します。参加は無料。本講座については折り込みチラシ、病院ホームページをご覧ください。

教育は臨床から。現場に出ないと学べないことばかりです

千葉大学医学部附属病院
総合医療教育研修センター長
たなべ まさひろ
田邊 政裕



「総合医療教育研修センター（以下、センター）」は、研修医の臨床研修と地域の医師たちの生涯教育を支援しています。病院勤務の医師や開業医の方々に、大学病院で最新の知識や技術を学んでいただくことで、地域医療に貢献するというのが目的です。平成17年度からは、医師だけではなく、薬剤師、看護師、理学療法士といった専門職のトレーニングにも協力しています。

シミュレーション教育の発達

この10年で医療は大幅に変わり、センターの役割も拡大しています。患者さんとは直接接する機会の少ない仕事ですが、医療安全や患者さん中心の医療などが、さらに広く求められるようになってきたからこそ、私たちもいっそう努力をしていかなければと思っています。

たとえば、近年、鏡視下手術と

いって、胸やお腹を大きくあけずに管だけを入れて手術をする方法が普及していますが、実際行う前に、十分なトレーニングをしておかないと、医療事故や医療ミスにつながる可能性もあるのです。当院では、このような技能を身につけるために、基本的な手技から高度な医療までシミュレーションできる体制を整えています。

また、救急医療のシミュレーション教育にも力を入れていきます。研修医や学生など経験が少なく救急患者にはなかなか対応できません。手技は、実際にやってみることで習得できるので、さまざまな救急の患者さんのシナリオを作り、シミュレータを使いトレーニングをしています。

患者さんの情報を正確に

以前は小児外科の医師でした。小児外科の道を選んだきっかけは「生まれたばかりの赤ちゃんをど

う治療するんだろう」と疑問に思ったこと。しかし、現場に入ると仕事はともハード。やりがいがありますが大変な領域です。そんななかで小児外科の良さを学生に知ってもらいたいと思ったのが、教育に携わるようになったきっかけです。

医療活動と教育は、密接に結びついています。患者さんの正確な情報を医師は常に把握しておく必要があります。小児外科の学生教育では、学生は朝一番に患者さんの所へ行つて、お母さんに患者さんのようすを訊いたり、患者さんの心臓や肺の音、お腹の具合などを正確に診察し、その結果を担当医師に伝え、その報告に対して医師が指示を与えるんです。

こうしたことを繰り返していくことで、診療と教育がつながっていく。教育は臨床からといいますが、現場に出ないと学べないことばかりなんです。

Profile

田邊 政裕 (たなべ まさひろ)

千葉市出身(千葉大学病院近くの末広中学に通う)。昭和49年、千葉大学医学部卒業後、千葉大学医学部附属病院第二外科に入局。同小児外科助教授を経て、平成11年～同 卒業・生涯医学臨床研修部教授。平成17年～同 総合医療教育研修センター教授・センター長。

ちばをてくてく

11 千葉県立中央博物館

秋の声に、耳をすまそう

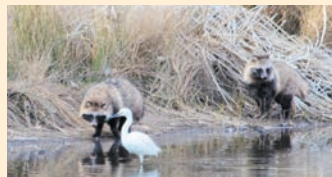
千葉大学病院からも近い、青葉の森公園内にある「千葉県立中央博物館」生態園で、ユニークな展示を開催中です。その名も、「あなたが聞いた秋の音を教えてください」(12月8日(日)まで)。生きものの自然の中での暮らしぶり(生態)を展示する野外博物館「生態園」で「拾い集めた音」が展示してあります。森や草地、湿原などを渡る風の音や虫や鳥など、記録された音を聞くことができます。

本館内では、もうひとつの企画展「音の風景～うつりゆく自然と環境を未来に伝える～」展も同時開催中(有料、12月1日(日)まで)。生態園からの音の実況中継や、「心に残る日本の音風景百選」など、博物館が所有する膨大な音のコレクションを楽しめます。耳から秋を感じるのも、いつもと違う風景が楽しめそうです。会期中には、江戸家猫八さんのトークショーやコンサートなど、耳をすまして楽しむイベントの企画もいっぱい。

耳で聞く秋の一日を楽しみましょう。帰りには、「生態園」を散策するのがおすすめ。運がよければタヌキに出会えるかもしれませんよ。

◎千葉県立中央博物館

千葉県千葉市中央区青葉町955-2
TEL:043-265-3111
JR千葉駅、京成千葉駅から「大学病院」[大学病院・南矢作]行きバスで「中央博物館」下車、徒歩約7分



トピックス

禁煙支援外来へようこそ

「本当はタバコをやめたい」「やめるように主治医から言われている」「家族からやめてほしいと言われている」という方は多いのではないのでしょうか。千葉大学病院では、昨年11月に「禁煙支援外来」を開設し、患者さんの禁煙を支え、継続していただけるようお手伝いをしています。

禁煙は我慢することではありません。たばこ依存から解放された生活を楽しめるよう、スタッフ一同、全力で応援してまいります。この機会に、ぜひ前向きに禁煙について考えてみてください。詳しいご説明・ご予約は、呼吸器内科外来までお電話ください。

(禁煙支援外来担当 潤間 励子)

外来では、喫煙状況がわかる簡単な息の検査を行い、体調管理、禁煙のコツなどについてお話ししていきます。すでに、治療を完了された方の半数が禁煙に成功しています。

禁煙したいと考えている方で、たばこ依存度を測るテストで5点以上かつ「1日の平均喫煙本数×これまでの喫煙年数=200以上」の方は、保険診療が可能です。禁煙支援薬(貼り薬または飲み薬)を使いながら、約3カ月間に5回受診していただきます。



あとがき

病院の玄関前に来ると新外来診療棟の骨組みが間近に迫り、その大きさに驚かれるのではないのでしょうか。新外来診療棟の広さは現在の外来診療棟の約2倍、診察室が増えることはもちろん、本号で紹介されているように災害時の活動拠点にもなります。裏話となりますが、そんな新外来診療棟もすでに部屋数が足りなくなりつつあるのです。大学

病院は常に最先端医療を提供することが使命ですので、工事中の今でも常に立ち止まることなく、患者さんへ最良の医療を提供するべく議論を重ねているが故です。完成まであと8カ月ほど、新しい千葉大学病院の玄関をくぐる日が待ち遠しいです。

(編集委員 放射線部 榎田喜正)